

- - - 4 その他の項目(BOD、総窒素、総リン)について

平成4年以降の水質調査結果によると、堰運用開始後、問題となるような水質の変化は特に見られていません。平成17年は全国的に少雨で木曾川水系においても濁水となりました。

BOD)

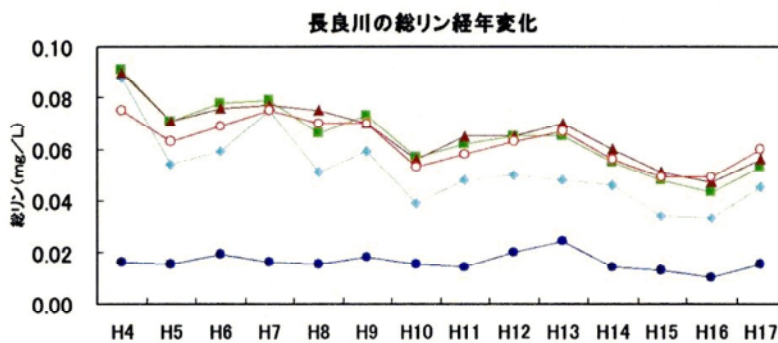
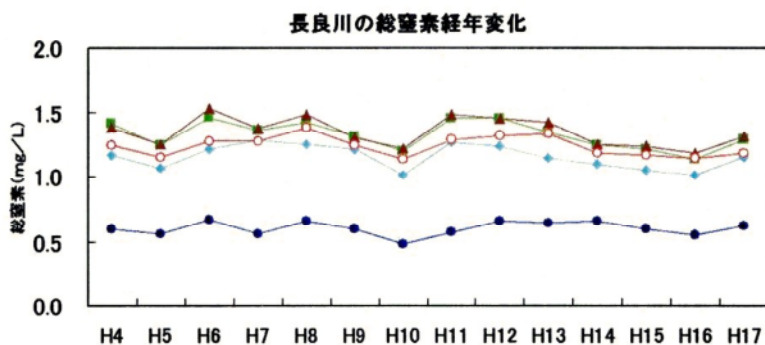
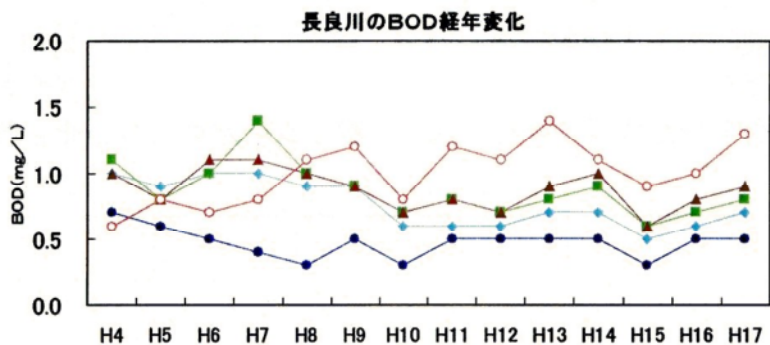
各地点とも変動はあるものの、1mg/l前後を推移しています。これは環境基準)(平成14年7月までB類型3mg/l、以降A類型2mg/l)の半分程度であり、良好な水質となっています。

総窒素)

経年的に明確な増減傾向はなく、長良川河口堰による影響は認められていません。

総リン)

経年的に減少傾向となっていますが、これは下水道事業の進展などにより流域からの負荷量が減少していることによるものと考えられています。



● 藍川橋 ● 長良大橋 ● 南濃大橋 ● 東海大橋 ● 伊勢大橋

注)公共用水域の水質調査結果の年平均値

長良川(堰上流)における水質の経年変化

) BOD

BODは水の有機物汚濁の指標で、生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)の略称です。微生物は、水中の有機物を分解してエネルギーを得ていますが、その際に酸素を消費するので、水中に有機物が多いほどたくさんの酸素を消費します。つまり、水の汚れが大きいほど、BODの値は高くなります。長良川下流部は環境基準A類型(BODの上限が2mg/l)に指定されています。

) 環境基準(水域類型)

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する基準については、河川、湖沼、海域毎に利水目的等に応じて類型が定められています。各公共用水域については類型のあてはめ(水域類型指定)を行うことにより、当該水域の環境基準が具体的に示されることとなります。

環境白書 岐阜県 環境用語集より

) 総窒素

窒素は植物の三大栄養素の一つで、湖沼・河川・海域などで富栄養化の原因物質となります。主に生活排水や工場・農業・畜産などから排水が流入し、多くなると植物プランクトンなどが大量に発生します。総窒素は水中の窒素化合物の総量を示します。

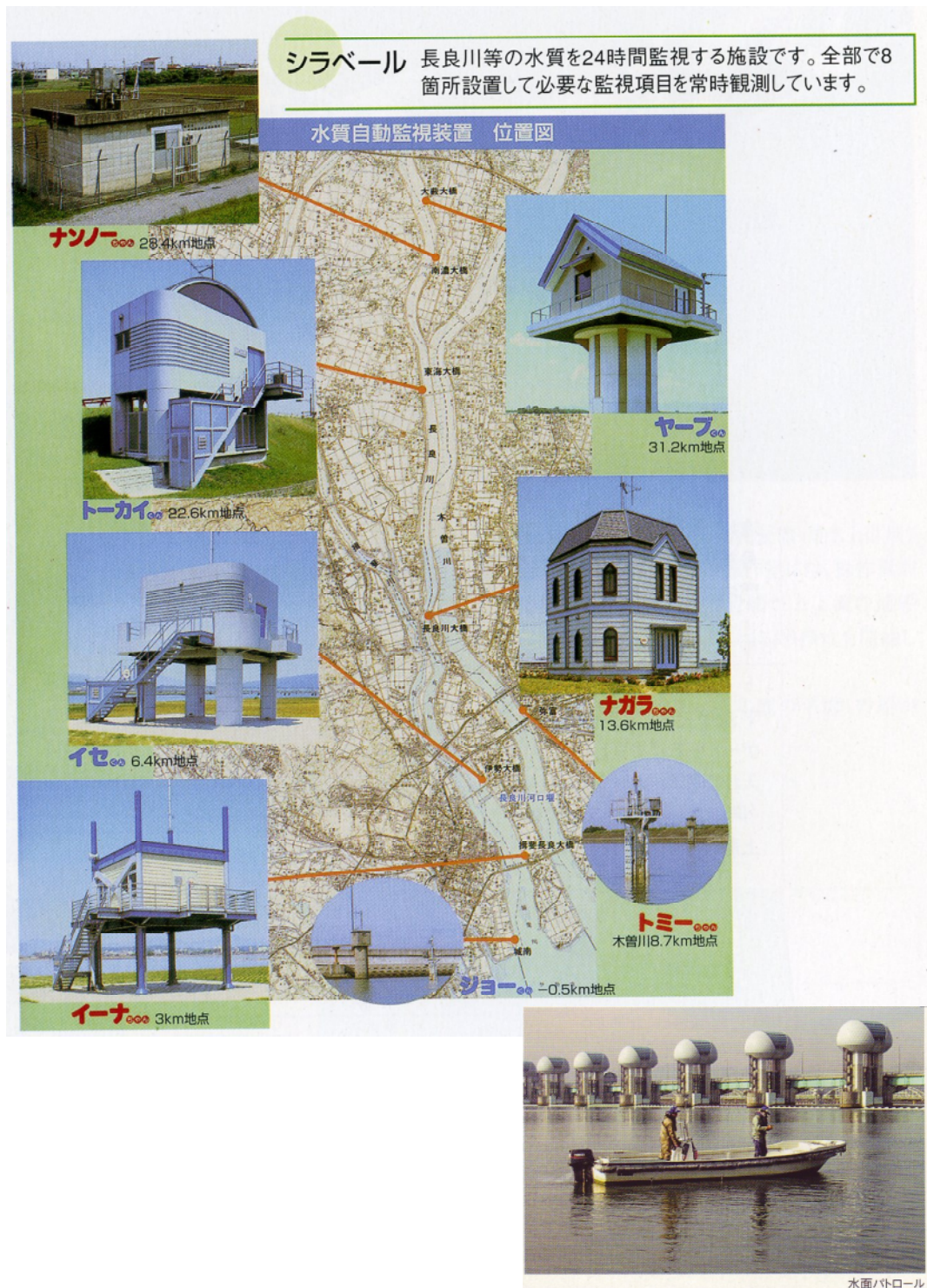
) 総リン

リンは植物の三大栄養素の一つで、窒素とともに湖沼・河川・海域などで富栄養化の原因物質となります。水中のリンが多くなると、窒素と同じように植物プランクトンなどが大量に発生します。総リンは水中のリン化合物の総量を示します。

- - 水質の監視体制と保全対策

- - - 1 河口堰の水質監視体制について

定期的に観測を行ってデータが積み重ねられてきた水質の定点観測が継続されているとともに、24時間観測ができる水質自動監視装置「シラベール」により、長良川の水質は常時観測されています。



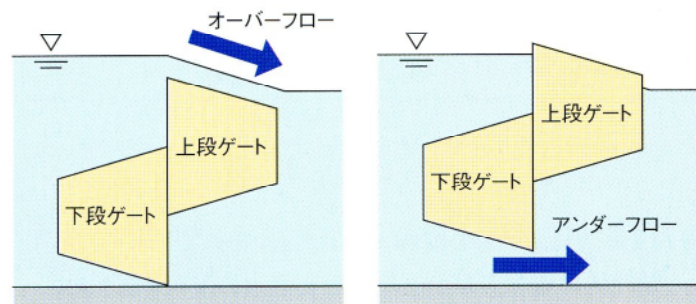
長良川河口堰パンフレット「INFORMATION」より

- - - 2 河口堰の水質保全対策について

不測の局所的、一時的な水質悪化に対し、ゲート操作による水質改善対策(フラッシュ操作)等が行われています。

●ゲート操作による水質改善(フラッシュ操作)

DO(溶存酸素)の低下またはクロロフィルaの増加時に、一時的に堰放流量を増やして水質を改善するフラッシュ操作を実施しています。



長良川河口堰パンフレット「INFORMATION」より